

発行責任者

上田 英雄

〒143-0015 大田区大森西7-8-25  
TEL 03-3731-0874



都島だより  
KANTO NANIWA KOGYOKAI  
NEWS

18 関東浪速工業会  
会報

事務局

笹本 克己

〒108 東京都港区芝5-20-11  
TEL.03-5441-4382 FAX 03-5441-4383

### 平成10年度 総会のご案内

#### 関東浪速工業会

今年度の総会を左記の通り開催致しますので、ご多忙中の事と思いますが、万障お繰り合わせの上ぜひご参集下さい。

日時 11月12日(木) 17時45分~20時30分  
場所 (市ヶ谷会館) グランドヒル市ヶ谷  
TEL・3268・0111  
新宿区市ヶ谷本村町4-1  
JR中央各停線  
地下鉄有楽町線  
市ヶ谷駅から  
徒歩3分

都営 南北線  
新宿 新宿線

●懇親会費 7000円(女性と同伴者は5000円)  
●同封の返信はがきに出欠のご記入の上必ず投函して下さい。  
会では若い方の積極的なご参加を待っています。必ず「行ってよかった」という結果になると思います。同級生等お誘い合わせて多数のご参加を期待しております。

#### ◎一年を顧みて

会長(M26) 上田英雄  
会長をお受けして十ヶ月余り、総会も近くなって参りましたので、この一年を振り返ってみたいと思います。一昨年の消費税増税による不況を引き溜った暗い年明けから始まったこの年も、不良債権処理の遅れと参議院選挙の与党の大敗で益々動きの取れない状態になって参りました。その上先日の長雨の被害と天候不良の影響で、会員の皆様も大変なご苦労の秋かと思えます。常に「より若く」をモットーに努力をして参りましたが、何か力不足が目立った一年でした。それでもこのような世相の中で本年の工業会の行事を次のように消化することができました。これは、幹事の皆様方のご協力、会員のご理解によるものと深く感謝致します。

◎行事報告  
○幹事会 1月、3月、7月、9月、10月  
○一泊懇親会 5月29、30日  
山梨県真木温泉 18名  
○見学会 7月25日 お台場フジテレビ見学 22名

#### ◎ゴルフコンペ 10月14日

紫カントリークラブ  
あやめコース 4組の予定  
○Mニュース 年2回発行  
5月(17号) 10月(18号)  
以上が平成10年度の行事報告ですが、特に一泊懇親会には昨秋のアンケート結果をふまえて対応し、その結果参加会員が増えました。今後もご希望の方は事務局までご連絡を頂きたいと思えます。また、承知はしていても機会がないと行きにくい副都心お台場とフジテレビの見学会も好評でした。

来る11月12日(水)に総会を行います。機械科当番幹事の年度最後のお勤めと成りましたが特に今回は総会の直後に講演会(M20能澤正雄講師による「原子力発電の安全性等について」を企画しておりますので、会員の皆様には是非お誘い合わせの上、多数のご出席をお待ちしております。

◎お台場フジテレビの見学会  
7月25日、ゆりかもめ新橋駅よりレインボーブリッジを経由

し、お台場のレインボータワーに到着。フジテレビの館内を見学、展望台からは、お台場に立つ「自由の女神像」(フランス政府より日本におけるフランス年の開催期間中設置されている。)や東京湾の眺望を満喫した。11月の総会での再会を約し散会した。22名名の参加。(敬称略)

E13加藤、笹本、E18平野、紀村、E25別所、E28有井(同伴) E29岩崎、川村、C9西谷、C18太田、秋月、C20榎本、C26中山、M16福生、若狭、M20岡野、M24神鳥、M26上田、M28橋本、M34石川、A15松原。

桂米左さん独演会のお知らせ  
桂米左さん(47) 西口勝臣  
大分で活躍中の都工掛の落語家、桂米左さん(建築科S59年卒本名・木村 佳)が今度東京で独演会を行われる事になりました。桂米朝さんのお弟子さんで、東京へも何度か公演に来られています。今回は独演会と言う事で、大阪からも都工の先輩方が応援に来られると聞いています。関東におきましても精一杯応援してあげたいものです。皆様のご来演、激励の電報等いただければ幸いです。

前売二千円。チケットピア  
03-5337-9988  
03-5337-1367  
西口〇四七四一三三三六七九

米の会  
日本橋  
10月24日(金)  
10月25日(土)  
10月26日(日)

#### ◎最近思ふこと

(M26) 福岡照夫  
会社勤めをしていた頃よく出張で国内航空を利用した。離陸・着陸時にベルト着用のアナウンスがあり、ステューデスが見回りチェックして細かくアドバイス(指導と受け取れる)していた。全ての動作がマニュアルに忠実で少々抵抗を感じながらも安全のためにはこれが普通と信じていた。

定年で年金生活になり毎日が日曜日で暇になったので一番安いシーズンを選んで年寄夫婦二人で海外旅行を楽しんでいる。初めの頃は日本の航空会社の方から安全だと奨められてコースを選んでいったが、値段の安いのに飛び付いたところNW(フースウエスト) 航空に乗った。隣の席の人に話し掛けても全く通じない。同じ東洋人の顔をしていたが周囲の人々は中国人の団体であった。ステューデスに「日本語の新聞はありますか」と問うたところ全く通じず「フリーイングリッシュ」と言われた。あわてて「Do you have a Japanese news paper?」と問うたところ「No we have not, but we have the English and Chinese.」との返事が返ってきた。本当は「ノー...ハブノット...ハブイング...チャイ...」と聞かされただけだったが自分の英語が通じたことに少々安心した。後は、食事の配膳の時の「ビーフオアチキン」とかドリンクの種類などを聞かれて少々ドキマギしたが家内がうまく返事してくれてこと無きをえた。学生時代の英語の授業での居眠りが今頃になって効いてくる。その思いもよらなかつた。反省しきり。離陸・着陸時のベルトチェックはリクライニングシートでの修正だけだったのには少々頼りない気がした。

先日、カンタス航空に乗った時、深夜、赤道近くを飛行中気圧の谷で大きく揺れた。大柄の

女性アテンダント(ステューデスとは呼ばない)がキビシイ顔をして大きな声で「ファースンベルト・ファースンベルト」と叫びながら通路を走ってお客に知らせながらベルトの着用を手伝っていた真剣な顔は、搭乗した時のゆっくりにした英語で大陸的なにぎやかさでお客様をお迎えしていた陽気さが一変してプロの姿の一片を見せてくれた。彼女も離陸・着陸時のベルトチェックはリクライニングシートの修正だけだった。ファースンベルトは細かくチェックする必要があるのであるのか。これからはもう少しつヒヤリングに慣れ、足腰の丈夫な間に各地を見て歩きたいものと思っている。

#### ◎世界一周の船旅を終えて

(E16) 戸部 暢  
私は日本丸に乗船して、平成10年4月22日に東京港の晴海埠頭を出発し90日間・6万キロの航海を終え、去る7月20日に同埠頭に帰港致しました。以下、旅行の概略を述べ皆様のご参考になればと思ひ筆をとった次第です。

この様な船旅への思い入れは偶然に新聞広告を見たことに始まります。その広告とは日本丸での世界一周の船旅への誘いでした。一度は経験してみたい船の旅、それに世界の港々を訪れる楽しみを思い浮べる内に旅への思い入れが強くなって参りました。

実際の乗船は2年も先のことであり、とり合えず申込みだけでもと思ひ立ちJTBBの大手町店に申込みを致しました。「エッ?」と一人で行くんですか? とり合えず申込みを打込んでおきます。とつれない対応でその後の連絡もなく参加を半ば諦めておりましたが、出発の半年前になって連絡があり、欠員ができたので参加OKで

# 都島だより

「す」ということでこれから慌ただしく旅行の準備に入ることになりました。簡単に日本丸を紹介しますが、平成2年に建造された商船三井客船の所有にかゝる外洋向け2万2千トンの豪華客船で1階〜7階迄運行する3台のエレベーターがあり、劇場・プール等の設備もあり一見して動くホテルの感があります。巡航速度18ノット、船客定員600名(本航海では350名)、乗組員150名となっておりますが、特に本航海には名物船長としてその名も高い神津定剛日本丸船長の存在を忘れてはならないと思います。さて、船内での生活は7時からの朝の体操に始まりですが、これは運動不足を託つ船客には人気があります。それから朝食になりませんが、8時には船内放送で8点鐘が鳴り船長が挨拶に続いて気象の状況や船から見える島や陸地の説明、又それにまつわるエピソード等興味深い話で船客一同この放送を心待ちにしているものですが、船内の余暇の過ごし方は講演会や催し物があるとき以外はそれぞれ好き勝手に過ごしますが、男性より女性の方がダンス・手芸・英会話等、趣味が多彩で一日を結構忙し過ぎていた様子でした。



大海原での朝の体操で、今日も爽快

特に船長の指名で乗船されていた。良波調理長の料理の腕前が良かったと思います。次に、食事の際の服装ですが、船の食事にはタキシードを着用しないという目だ、という様な風潮を耳にしていたのですが、この様なフオーマルな服装の着用は航海中に数回ありましたが、この様なときでも男性は、礼服に蝶ネクタイをつけて済ませることが出来ます。その他の日は殆どカジュアルな服装でよく、気楽な気分です。夕食には日本酒やワインが付き、談話もはずむというものです。又デッキランチがとき折り催されますが、甲板でのテントの下、バイキング料理で潮風に吹かれながら飲むビールは味は格別で、今もそのときの楽しい情景が思いおこされ懐かしい感じが致します。

本航海中に寄港した外国の港は24を数えました。大体、朝に入港して夕方には出港するという慌ただしいパターンでしたが、その短い停泊時間を利用して、港付近の観光スポットをバスに乗って回ります。観光ルートは半日と一日コースがあり、当初私は一日コースを回りましたが、昼食での現地の料理が身体に合わず、以後は半日コースにして昼食は船に帰ってとることにしました。現地の料理は油が多くて日本人の口には合わないと思います。

印象に残っている風景は、と言いますと、南米のブラジルとアルゼンチンの国境にまたがる「イグアスの滝」とアメリカはアリゾナ州にある「グランドキャニオン」、それにスエズ運河とパナマ運河があげられます。イグアスの滝はすごい水しぶきと轟音に圧倒されたこと。グランドキャニオンではセスナ機で上空より見下ろしている内に酔って気分が悪くなり見物どころではなくなりました。又スケールの大きい断崖、絶壁を目的のあたりにして、自然の造形の偉大さに打たれたもので、この様な自然の風景に對比して、人工の建造物として、その偉大さに感銘をうけましたのはスエズ運河とパナマ運河です。スエズ運河は砂漠の中を延々と続く水路を航行する単純なものでしたが、パナマ運河はさすがに技術と結果を結集して造られただけあって見ごたえのあるものでした。運河の通過は生憎夜間になりましたが、暗々と輝く照明の下、ロックに入った巨船が水位の上昇と共にクレーンと押しのけられてゆく様子は実に迫力のある光景でありました。蛇足になりますが、パナマ運河は西暦2000年よりその所有権がアメリカからパナマへ移譲されることになっていきます。

今航海で日本丸に乗船していた船客数は359名、乗組員は153名(東京港帰港時)ですが、船客の平均年齢は60歳を越えていると聞きます。船客の内容を分析してみますと、夫婦で参加されている人数はやはり多くて全体の3分の1を占めています。残り一人旅の方になりますが、男女の別では女性が案外多くて男性の数の倍近くなっています。

何か近頃の世相を反映している様であります。出発時に貰った船客名簿から船客の住所を府県別に分類してみますと次の様になります。①東京(82) ②神奈川(50) ③大阪(32) ④千葉(兵庫(各23) ⑤埼玉(21) ⑥静岡(14) ⑦京都・北海道(各9) …以下省略(括弧内数字は人数を示す)。これも、社会情勢を暗示している様で興味があります。

次に、乗組員について一言。本航海では、船長以上上級船員は経験豊富なベテラン揃いで安心感がありました。下級船員達は若い男女のフリーピン人が多く、私の見た限りでは真面目で利発そうでした。私が甲板のデッキチェアで本を読んでいると、若い男の船員が休憩時間でしょうか甲板の片隅で日本語と比語の対訳辞書を開いて勉強している私も質問をうけました。最後に、これから「せかい一周の船旅」を計画される方へ、アドバイスを交えて私の経験を話しておきたいと存じます。それも一足飛びに90日間もの長旅に挑戦したということ、他の船客達から「勇気がありますね」と誉められました。大ていには、本航海の前に短い船旅をされておられた様です。私が何時も親しくして戴いて食事も一緒にという方は、4人共世界一周船旅を既に経験しておられました。一度船旅の楽しさを味わうと病みつきになって、又船に乗ら

なくなってくるようで、俗に「クルーズ病に罹った」と言われています。特に女性の場合、煩わしい家事から開放されて、上げ膳据え膳の豪華な食事付の余暇は船内での催物に積極的に参加して楽しい時間を過ごせるので、すから悪い筈はありません。ダンスは男女共に人気があり、乗船前に一応レッスンを受けて来たと言う人もありました。船内では無料で教師の指導を受けられるので、下船する迄の3ヶ月の間には随分上達が望まれることと思います。

残念ながら私は、ダンスには興味がなく損をしたと思っております。

船内には、2階と3階にそれぞれ男女別の洗濯室と乾燥室があり下着等の洗濯が手軽にできます。またアイロン掛けもOKです。乗船時に持参するものの中で私が忘れて不便をしたものは名刺です。名刺は沢山持って行かされた方がよいと思います。次に大事なものは何と云ってもお金ですが、これはできればドルをお勧めします。ドルは何処の国でも通用しますし、値切って買物をするときは1ドル札が便利です。又、釣銭は現地通貨で呉れますので後の処置に困ることになります。トラベラーズチェックは、殆ど使いませんでしたが、下船時には持って出られないので商店での提示ができません。又クレジットカードも用意して行きましたが、利用したのは只の1回きりでした。

次に旅行の費用に移りますが、私の場合はできるだけ経費を安く、船場の方は一番安い2人相部屋を選びました。早速申込割引で310万円でした。

それと、オプションナルツアー代金が約50万円と諸手続・保険料等で約10万円、他に土産物・小遣いを加えるとして400

万円ということになりました。旅は道づれと申します。乗船する迄は、どの様な人と同室になるのかと不安な思いをしておりましたが、幸い同室の方は船長のお兄さんで、長野県の佐久の市長を二期勤められたとかで豪放磊落、俳句を良くし、私もいろいろと教えて戴きました。良い方と一緒に居て、楽しい旅ができたことは本当に幸せだったと喜んでおります。

船長の署名入りの「スエズ運河・パナマ運河の通航証明書」と「赤道通過の証明書」は、船旅をして初めて貰えるもので、私の大事な宝物と思っております。

終りになって恐縮ですが、本航海に当り、色々アドバイスをお寄せいただいた岡野幸雄様(M20)に厚く御礼を申し上げます。

最後に、皆様一人でも多く「世界一周の船旅」にお出かけになることを祈って筆を擱きます。(平成10年9月記)



◎俳句 里こころ (M18) 小川玉泉  
 ・久びさの夕やけ野川昂ぶらす  
 ・子沢山昔語りや盆の月  
 ・巡礼に似て家ぬちを錠叩  
 ・糸瓜畑幼さぬの路地に似て  
 ・たつぷりと日に酔ひ痴れし酔芙蓉  
 ・罌雲にはかに兆す里こころ  
 ・穢れなき空の高さへ朝の鳴

◎訃報  
 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。  
 M24池田紀元氏 6月1日(日)逝去  
 E18教野初治氏 8月28日(日)逝去